

# 最後まで粘り強く作業や仕事に取り組む子

岸 田 富 夫

## はじめに

おしゃべりが多く、ちょっとしたことで、気持ちが離れ、授業にも集中しないH児が、肥満を改善し、身のこなしがスムーズになったからだを、生活単元学習で彼の独創的なアイデアを活動に生かす指導をすることによって満足と自信を持ち、情緒的にも安定し、作業等への粘り強さが育ってきた経過について述べてみたい。

## 1. 対象児のプロフィール

- (1) 生育歴… ・逆子。早産8カ月。吸引分娩。体重2,200g。  
 保育器に180日間入る。病弱、検査のため、県立中央病院や鳥大附属病院に入院。幼稚園、保育所には通っていない。市内K小学校特殊学級に1981.4月入学。  
 1987.4月本校中学部に入学。現在中学部3年男子。

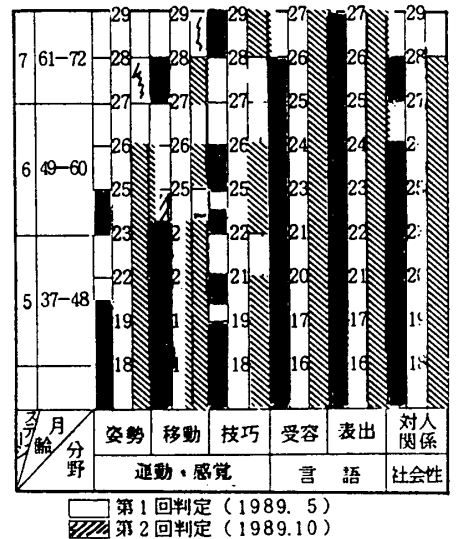
### (2) 本児の実態

- ・津守式乳幼児発達検査（5月実施）では、p.52に示したBタイプの6才程度。特に、探索の得点が低い。
- ・MEPA（図1）では、第6ステージ（4.1～5才）が中心であるが、言語、社会性は、突出しているのに対して、運動・感覚のうち、姿勢、移動が劣っている。実際の生活行動では、気分や思い、やる気などに左右されて、得点ほど活動できておらず、おしゃべりの印象を持つ。
- ・昨年10月、鳥取大学医学部附属病院にて、プラターウィリー症候群と診断。無呼吸睡眠も認められる。手足が細く、腹が出ていて、14才とは思えないほど身長が低かった。
- ・昨年10月から、日に1回のホルモン注射とトランポリンでのジャンプ、タイヤ運び、フィールドアスレチック、ボール投げ、雑巾がけ等の養護・訓練に取り組み、からだでは（図2）のような結果を得てきた。が、注射の副作用で、更に太りやすい体質になっているので、家庭では、かなり厳しい節食をしており、常に飢餓感を持っている。

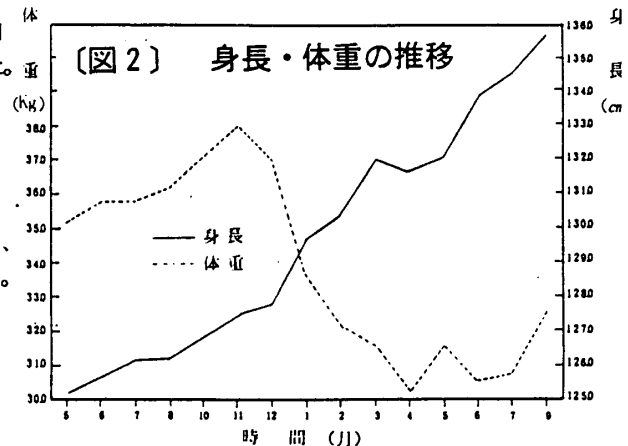
### (3) 行動・特性

- ・言葉が先に走り、行動がなかなか伴わない。
- ・働くことがあまり好きではない。
- ・放浪癖があり、何かに夢中になると、時間や、場所などを忘れてしまう。
- ・とても良いアイデアを持っており、それを生かすと喜ぶ。
- ・いろいろな計画に熱中して取り組める。

〔図1〕 MEPAプロフィール表



〔図2〕 身長・体重の推移



## 2. 指導の方針・手だて

肥満解消により、自分のからだ、思うように使えるようになり、自分のやりたいことに取り組み、しかも、自分の考えたアイデアが生かされたなら、そのことによる満足感、成就感が、更に、彼のやる気、気分を高め、学習への集中力になると考え、指導を行った。具体的には、

- 彼のアイデアを生活単元学習の推進役に生かす。
- 彼のアイデアに行動で裏打ちさせる。
- 力いっぱいからだを動かさせることで、彼のアイデアを成就させ、身体作りと情緒の安定を図る。
- エネルギーを学校生活にしっかりとつき込み、家庭生活での問題点を改善していく。
- 肥満対策の継続と、節食に対する飢餓感を生活単元学習へのエネルギーの注入で、少しでも少なくしていく。



## 3. 指導の実際（生活単元学習での遊び的労働）

第一の単元「野外炊飯」（5月）は、学部遠足で教育実習生に、炊飯をして見せてもらったところから始まる。それを見たH児は、しっかりこの単元に乗ってきた。食べることに執着していた彼にとっては絶好の単元のように思われる。その中のテーブル作りのある時間の様子を述べる。（話し合いで、野外炊飯は、焼きそばを作ることになっていた。）

T1：焼きそばができたとしても、どうやって食べるだ？お皿持って食べるだか？

S1：テーブルがある！

T1：そうだなあ。地べたにお皿おくわけにはいかんもんなあ。

T2：そういうと思って、先生はこれを持って来ただ。（木の枠を見せる。）

T2：これを地面においてテーブルにしよう。（H児が、変な顔をする。）

T2：どうした？H君。

H児：テーブルには足がないといけんじゃあないか！

（T2が、困った顔をする、よけいに大きな声で「いけん」と言う。）

T1：T2先生、しかたないで。これだけ、一生懸命言うだもん。足を付けれんか。

T2：難しいけど、やってみるか。その代わりに、H君が、言い出しっぺだけ、しっかり、働いてな。



【のこをひくH児】

その後、折り畳み式のテーブルの足が完成し、自分で足を出して、テーブルを立てた時、大きな声で「やったー。テーブルができたー。バンザーイ！」と、喜んでいた。

第二の単元「臨海学校」（7月）は、毎年恒例の生活単元であるが、今回は、砂で作ろうという遊びを取り入れた。それには砂が必要と、H児を通して、「学校に砂場を作るから、お父さん（建設会社の取締役をされている。事前に連絡済み。）に頼んどいて。」と、依頼しておいた。彼が父親に頼み、砂を4トン学校に寄贈してもらった。彼の人に信頼されている。」という自信を持たせる場面が組めた単元のように思われる。その中での砂場作りを紹介する。

H児：これ、お父さんの会社の人が運んで来たんだで。  
 T1：そうだなあ、こんなにようけ持ってきてもらったらけー、  
 お礼を言っといてよ。  
 H児：うん。僕げのお父さんT建設の社長だけー。  
 大きなダンプカーがあるし、クレーン車もあるで。  
 T1：うん、知っとるけー。それよりも、早く砂場を作らんと  
 勉強がでせんがな。  
 H児：本当だ、急がんといけん。



こう言って、彼の特徴的なおしゃべりを一言もせず、ねこ車（一輪車）を押して、何度も、砂場と砂が置いてある場所との往復した。この頑張りが、夏休み中の「さざなみ作業所」での仕事の頑張りに結び付いた。

第三の単元「**連合運動会**」（9月）は、県東部の心身障害児学級・養護学校の児童生徒が、附養に集まってする運動会である。彼にとってこの単元は、身体を動かす為の格好の単元であり、自分の力を試す機会でもあった。大勢の友達を迎えて上げようとクラスで何かをしようと話合いをしていたときのある時間について。（教師側は段ボールを積み上げてシンボルみたいな物を考えていた。）

T2：（工作雑誌の写真を見せて）これー。見てみんなさい。  
 可愛いだろう。こんなん作ろうでー。（他の子は、賛成するが。）  
 H児：でも、先生、風が吹いたら、段ボール箱は飛ぶで。  
 T1：中におもしろを入れて飛ばん様にするだが。  
 H児：雨が降ったらどうするんですか。  
 T1：そうか、雨までは考えんかったなあ。そうしたらどうしようなあ。  
 H児：木で作ったら。  
 T1：木？ベニヤ板で？でも、時間がないしなあ。材料もないし…。  
 T2：そうか、木か。でもT1先生が、時間がないって言うけー。  
 どうする？がんばって作るか？それともやめる？  
 H児：頑張るー！！  
 T1：他の人は？



他の子も、H児の意見に賛成し、立て看板を作ることになった。

#### 4. 指導の結果

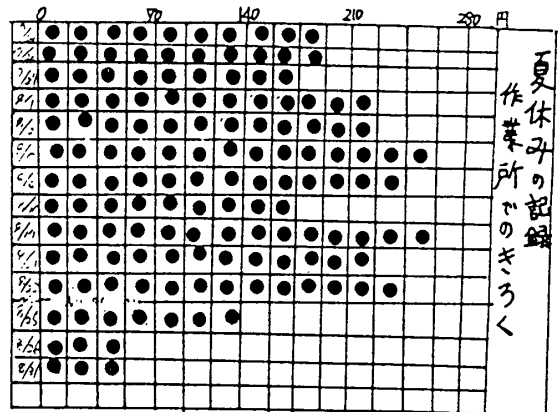
- ① 学校生活では、表情が明るくなって、情緒的に安定してきた。  
 また、学習場面でのおしゃべりや、文句も少なくなっている。
- ② 遊びの労働で組んだ生活単元の学習をしているとき、学習時間になってももどってこない等の問題行動が減少した。
- ③ 運動能力、がんばる力がついてきている。



以前、長距離を走らせても、途中で歩いたり止まったりしていたが、水泳で、ビート板を使って、ばた足をしたり、2学期に入ってからは、最後まで、走るポーズをとり、決して止まっ

たりせず、体力作り、合同体育などに楽しんで参加している。特に、さざなみ作業所での頑張りについては、こちらの予想以上の成果が出ていると思われるので、挙げておく。

夏休み中に於ける「さざなみ作業所」での仕事への取り組み  
 「さざなみ作業所」は、本校の保護者、教員の出資で運営されている作業所である。中学部では、職場実習などで、お世話になる。今年の夏休みは、期間は強制せず、暇があれば、各自の能力に応じた目標で参加するという指導であった。  
 彼は、母親と一緒に作業所に通い、例年のおしゃべりばかりで、手が動かない態度とはうってかわって、黙々と自分に与えられた仕事をこなしていき、目を見張る作業ぶり、所長の山里先生からも、「H君の作業態度はとても良い。」と、お誉めの言葉を戴くほどであった。



## 5. 考察

彼の持っている本来の力が、肥満という障害により、出し切れていなかった。が、それが昨年からの取り組みにより、肥満から解放されたため、自由にからだが動かせる状態になった。しかし、障害から解放されて間もないからだは、動き方（動かせ方）を知らない。ちょうど、その時、遊び的労働という、彼のからだにぴったりの生活単元学習が組まれた。その内容は、純粋な仕事・作業ではなく遊び的要素が多く含まれていたため、彼の意識、からだにちょうど良く、無理なく学習に集中していったものと考えられる。

更に、単元の中に、彼の抜群のアイデアをどんどん取り入れることにより、「自分の意見が取り上げられた」という自信、自由に動くからだを使って、遊びながら仕事をするという、強制されない自由な労働で「テーブルの足を付けるんだ。」と言うような目標を達成するまでの集中力等が着き、彼の情緒を安定させ、さざなみ作業所の作業の頑張りにつながっていったと思われる。

彼の問題行動である放浪癖も、この遊び的労働で組んだ生活単元時期は全くなく、担任の牽制や、本人の「みんなと一緒に勉強したい」という思いがそうさせなかったと考える。

また、家族の協力についても、挙げなければならないであろう。本人の病気を正しく捉え、厳しく、食事制限を行い、子供の本来の力が発揮されるからだにしたお母さんの努力。それに報いられるH児になって、母親とのラポートが増していき、更に安定していく要因を形成していると考えられる。

## 6. 今後の課題

以上、今回の中学部の取り組みで、変容の顕著な事例の一つであるH児について述べてきたが、依然残された課題もある。以下に、その課題を列挙する。

- ① 与える（られる）だけでなく、共に作り出す、いきいきとした学校生活
- ② 肥満の取り組みと、節食による心の不安定への対策
- ③ 好きなことだけでなくどんな仕事でも取り組める態度作り